

近畿大学を巡る史資料 ―二種類の『学報』―

11

教職教育部教授

建学史料室研究員 富岡 勝

ある。二〇一八年には一三〇年史の編集を進め、一三〇年史刊行後は五年ごとの刊行スケジュールの見直しを行い、次の年史刊行は一五〇年史の予定であるとの説明があった。一五〇年史編纂にあたっては、現在書庫内にある資料の整理と学内資料に関する一斉調査の実施による基礎資料の整理と収集を当面こなすべき第一の課題としている。学内調査の終了後に、年史編纂のための委員会の設置を検討する予定であると説明された。また、同時に学院年表や『学院時報』の記事索引の作成にも着手することであった。今後は資料の目録化を進め、年史の目次を作成し、執筆者へ資料を提供できるように作業を進めていくそうである。

井上氏は、私立学校を取り巻く諸々の厳しい状況の中で、学生の教育のための組織ではないアーカイヴズの必要性についての理解はなかなか難しいと語っていた。この中で、アーカイヴズの整備・充実を目指した福岡女学院資料室の取り組みは注目値するものであると立ち上げを任された井上氏は話してくれた。これらの福岡女学院資料室の資料収集や保管に関する取り組みや資料展示などの工夫は我々の参考になると思われる。

(九州短期大学教授

建学史料室研究員 三木 一司)

令和元(二〇一九)年に創立三十周年を迎えた教職教育部の年表をつくる作業に取り組んだ(詳細は『近畿大学教員論叢』第三十巻第一号に「教職教育部30年史略年表作成の試み」として掲載予定)。

この作業には主として部内の会議資料や紀要を活用したが、同時に、教職教育部の設置、関係する学内規則、人事発令などの基本的な事実を確認する上で、『学報』が欠かせない存在であることを痛感した。

ところで、年表をつくるまで筆者も明確には認識していなかったことだが、この『学報』には、次のように二種類存在している。

一種類目の『学報』は、昭和四〇(一九六五)年九月一日に『近畿大学学内報』の名称で総務部総務課の編集・発行で創刊され、平成二(一九九〇)年九月二十日発行の第二三二号で『近畿大学学報』(広報・出版課の編集発行)と改称されて現在も発行されている。令和元年十月一日までに通算で五三八号が発行されている。本稿ではこれを便宜上『学報一』と呼んでおきたい。

二種類目の『学報』は、昭和三十

五(一九六〇)年十月一日に近畿大

学学報局によって『近畿大学学報』として創刊され、平成二(一九九〇)年八月一日発行の第三三四号で『近畿大学学内報』(近畿大学広報・出版課から発行)と改称され、平成十七年四月一日の通算四五四号まで刊行された。これを『学報二』と呼んでおく。

あえて単純に整理すれば、『近畿大学学内報』として創刊された『学報一』は、学内規則や人事異動などの正式連絡の場として役目をもったいわば官報のような存在で、『学報二』は『近畿大学学内報』と改称したことから分かるように、学内の様々な動きを伝えることで教職員の認識共有をはかることが主な役割であったといえるだろう。

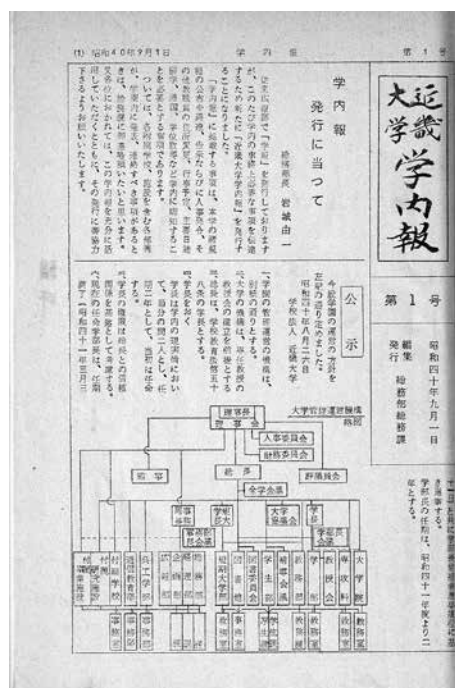
以下、この二種類の『学報』について、刊行目的や掲載事項などを紹介したい。(原典尊重の観点から、史料に一部不適切と思われる表現が見受けられるが、原文のままとした。)

【学報二】(『近畿大学学内報』→『近畿大学学報』)

昭和四〇(一九六五)年九月一日に発刊された『近畿大学学内報』創刊号巻頭に総務部長岩城由一「後の理事・事務総局長筆者注」による「学内報発行に当って」が掲載されている。このなかで、刊行目的が次のように述べられている。

従来広報部で「学報」を発行しておりますが、このたび学内の事務上必要な事項を伝達するために新たに『近畿大学学内報』を発行することになりました。

「学内報」に掲載する事項は、本学の諸規程の公布や通達、告示ならびに人事発令、その他教職員の住所変更、行事予定、主要日誌、留学、帰国、学位取得など学内に周知することを必要とする事項であります。



『近畿大学学内報』第1号



『近畿大学学報』第1号

「校友 糺谷光三氏 欧州視察から帰る」
「薬剤師試験好成績」
「学園広報事務の強化について」
「ブリのフ化成功」
「水産研究所 原田主任」
「呉工學部の近況」
「内容ますます充実」
「原子炉工學科の新設」
「呉には経営工學科」
「校友から新博士二名」
「教保会（附属小学校保護者会、筆者注）総会」
「商經學部行事」
「原子炉工學部は十月」
「スラム街（原文のまま）を实地視察」
「総長・法務委員として」
「近大附属小学校の」
「暑假作品の展示」
「通信教育部の夏期スクールリング」
「職業科學研究所」
「最近の事業と研究」

「新設される教養部」
「新宮分校の諸行事」
「就職の活況ぶり」
「求人への申込殺到する」
「大学祭」
「近大会館便り」
「通信教育部秋季行事」
「税務署校友支部総会」
「日本薬学会近畿支部総会」
「辞令」
「平成二（一九九〇）年八月一日発行の第三三四号で『近畿大学学報』から『近畿大学大学新聞』へ改称した。この号の主な記事見出しも紹介したい。
第三三四号
（平成二年八月一日）、全三面
「平成三年度入試要項」
「推薦、狭い門へ」
「夏期特別講演」
「慶応大教授招き『新たな挑戦』」



『近畿大学大学新聞』第334号

「好評の入試説明会」
「米・イリノイ大との」
「学術交流協定書交換・成立」
「推薦入学試験」
「一般入学試験」
「現役善戦、関東勢増える分析」
「理工学部宗像恵教授に」
「今年春の入試動向」
「五年連続の科研費」
「中山MAS基金賞」
「商經學部 市毛明・助教授に」
「記念発行『カラーマップ』」
「ご利用ください」
「世耕杯争奪弁論大会」
「文芸・長江貞彦教授ら」
「CGコンで『花博賞』」
「アーチスト育成めざす」
「三次元モデルで疑似体験も」
「平成元年度資金収支決算総括表」
「平成元年度消費収支決算総括表」
「トキイロヒラタケが人工栽培」
「農・稲葉助教授のグループ」
「全国から約六百五十人集う」
「校友会定期総会」
「探検部がバキスタンで合宿」
「海外生活体験事業の派遣生に」
「附属新宮高の橋本さん」
「水泳日本選手権」
「アジア大会代表選考会」
「千葉すすさん附属中3年が」
「新記録で優勝」
「近大寄席」
「2度目の世界大会出場」
「チアリーダーの石倉幸子さん」
「柔道部 無念！団体日本一逃す」
「洋弓部」
「四連続！学生王座に輝く」
「校内陸上競技大会を」
「開く附女子高」
「以上、二種類の『学報』について紹介した。どちらも本学の歴史を振り返る上で欠かせない史料資料であるといえる。」